




ITと愛があるマネジメント
「アイマネ」

大反響第2期！

リーダーになったら！マネージャーになるなら！

「ファクトベースで学ぶ ITマネジメント力アップ」 集中コース

◆ITマネジメントにおいて重要な項目を「ユーザー1000社のIT動向」というファクトをベースに、「ユーザー自らが語る事例」「簡単なワークショップ（ラップアップ）」で一通り学ぶコースです。
◆IT部門の次世代リーダーの方に最適のコースです。

2014年9月より全5回＋フォローアップ

9月10日(水)	10月7日(火)	11月11日(火)	12月2日(火)	'15年1月22日(木)	'15年3月12日(木)
第1回 ITマネジメント	第2回 IT投資	第3回 IT推進組織と IT人材	第4回 システム戦略 ～テクノロジー・ インフラ編 NEW	第5回 システム構築 ～経営戦略の 実現～	フォローアップ セキュリティ動向 総合ラップアップ NEW

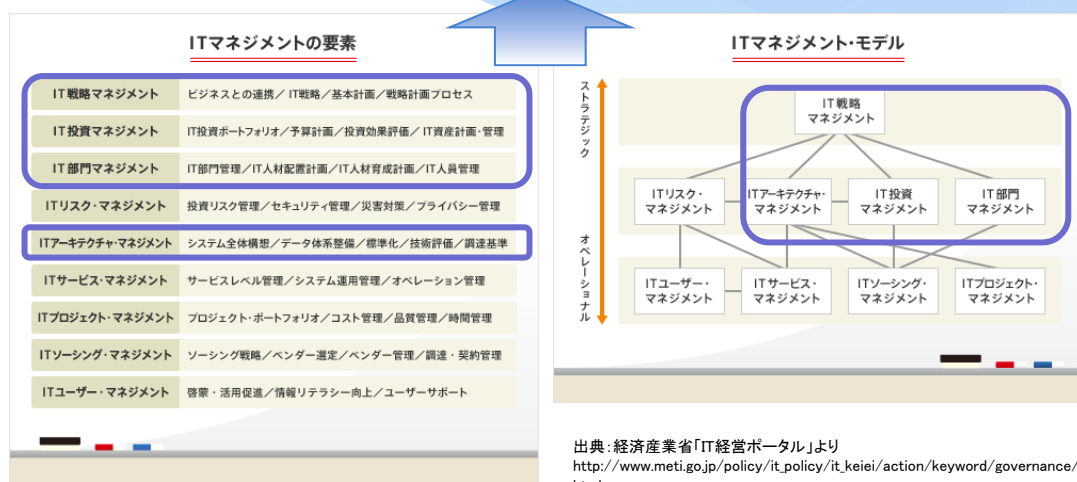
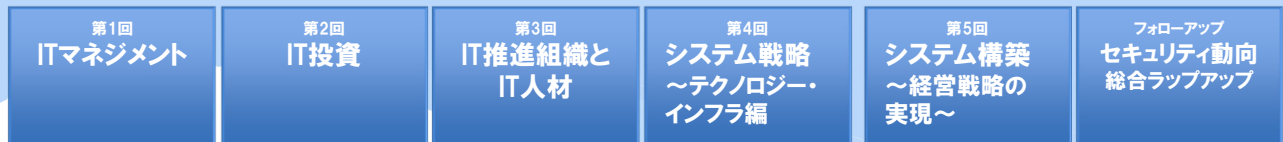
- 対象： IT部門の次世代リーダーの方
- 会場： 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 会議室(東京日本橋)
- 参加費： 5回コース受講(限定25席)：JUAS会員/ITC：142,560円 一般：178,200円
スポット受講(12席)：JUAS会員/ITC：22,000円 一般：28,080円(いずれも1回あたり)
- 定員： 各回45名(コース25名・スポット12名)
- お申込： <https://www.juaseminar.jp/seminars/view/4114137>
- お問合せ： 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 研修事業担当：平山
TEL:03-3249-4102 MAIL:seminar@juas.or.jp



一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
Japan Users Association of Information Systems

◆本コースの目的◆

リーダーになったら、マネージャーになるなら、必須の素養であるITマネジメントの要素のうち今特に関心の高い5項目について学びます。



◆カリキュラムの4つの特徴◆

企業の取組み状況／トレンドを定量的に知る

ユーザー企業約1000社の回答からまとめたIT動向・取組状況を定量的に確認する。自社の立ち位置をベンチマークする。

型としての具体例を学ぶ！

ユーザー自ら語る事例

当該テーマに着手する際のポイントや留意点、心構えを事例から実感する。

将来のアクションにつなげる！

ワークショップ(ラップアップ)

簡単なワークショップ(ラップアップ)を行い、各テーマの実践に向けたマインドを醸成・体得。

他社の同じ立場の方との交流会

同じ立場の方との他流試合・仲間作り！

◆選べる受講形態◆

◇コース受講：5回＋フォローアップ通し受講(代理出席可)、特典あり

特典①各回WS(必須)・交流会(任意)の受講

特典②2014年5月発売「企業IT動向調査2014」(定価¥14,200)をプレゼント

◇スポット受講：参加したいテーマのみ受講

カリキュラム概要

※カリキュラム・セッションの入替など変更することもあります。

	9月10日(水)	10月7日(火)	11月11日(火)	12月2日(火)	'15年1月22日(木)	'15年3月12日(木)
	第1回 ITマネジメント	第2回 IT投資	第3回 IT推進組織とIT人材	第4回 システム戦略～テクノロジー・インフラ編	第5回 システム構築～経営戦略の実現	フォローアップ ・セキュリティ動向 。総合ラップアップ
13:00 - 14:05	「開講式」 基調講演 「これまで、そしてこれからのITマネジメントとは」 (株)アイ・ティ・アール 代表取締役 プリンシパル・アナリスト 内山 悟志氏	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査 2014から現状と動向をご紹介 日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 浜田達夫	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査 2014から現状と動向をご紹介 日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 浜田達夫	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査 2014から現状と動向をご紹介 日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 浜田達夫	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査 2014から現状と動向をご紹介 日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 浜田達夫	
14:10 - 15:10 (QA10分含)	ユーザー事例(1) 「IT部門は変革仕掛け人！プロセス・プロダクトをも変革した「抜本改革」」 東京海上日動火災保険(株) IT企画部 部長 三宅 晃氏	ユーザー事例(1) 「投資前に効果宣言！ビジネスへの効果をとことん考えるIT投資の決定・評価のしくみ」 (株)JTB情報システム 執行役員／調達管理部長 伊藤 誠氏	ユーザー事例(1) 「DNPグループにおけるIT人材強化と横断的組織機能強化への取り組み」 大日本印刷(株)情報ソリューション事業部 スマートソリューション企画開発部長 辺見匡氏	ユーザー事例(1) 「インフラ戦略がビジネスを制す！進化を続ける宅急便とそれを支えるインフラ戦略」 ヤマト運輸(株) 情報システム部長 田中 從雅氏	ユーザー事例(1) 「我らはビジネスを加速させるクリエイター！経営戦略をリードするスピード開発」 カブドットコム証券 常務執行役 事務・システム本部副本部長兼システム部長 阿部 吉伸氏	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」セキュリティについて、企業IT動向調査 2014から現状と動向をご紹介 日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 浜田達夫
15:20 - 16:20 (QA10分含)	ユーザー事例(2) 「新市場創出のエンジンとなれ！ビジネスを支えるグローバルクラウド基盤構築」 (株)リコー 経営革新本部 副本部長 理事 石野 晋之氏	ユーザー事例(2) 「効果なくして投資なし。企業競争力を加速するIT投資対効果検証サイクルの構築」 (株)ローソン 業務統括本部 参事 粕谷 武宏氏	ユーザー事例(2) 「組織力を最大限に発揮する！人を大切にすることのプロジェクトマネジメントを目指して」 (株)中電シーティーアイ 取締役 人財開発センター長 松田 信之氏	ユーザー事例(2) 「変化をがっちりキャッチ！経営戦略にそったインフラ戦略をめざして」 (株)三菱東京UFJ銀行 システム部 システム企画室 EAグループ 次長 厩本 文哉氏	ユーザー事例(2) 「今この瞬間の経営情報を押さえ打ち手を逃さない！リアルタイム・マネジメントへの挑戦」 ドコモシステムズ(株) クラウド事業部 クラウド開発部長 井尻 周作氏	「ワークショップ(ラップアップ)～私が今後取り組みたいITマネジメント～」 日本情報システム・ユーザー協会 常務理事 浜田達夫
16:30 - 18:30	ワークショップ(自己紹介／ラップアップ) ファシリテーター：日本情報システム・ユーザー協会	ワークショップ(ラップアップ) 「IT投資」 ファシリテーター：日本情報システム・ユーザー協会	ワークショップ(ラップアップ) 「IT推進組織とIT人材」 ファシリテーター：日本情報システム・ユーザー協会	ワークショップ(ラップアップ) 「システム戦略～テクノロジー・インフラ」 ファシリテーター：日本情報システム・ユーザー協会	ワークショップ(ラップアップ) 「システム構築」 ファシリテーター：日本情報システム・ユーザー協会	ワークショップ(ラップアップ) 「システム構築」 ファシリテーター：日本情報システム・ユーザー協会
18:30 - 20:00	交流会		交流会		交流会	交流会



✓5回コース受講：5回＋フォローアップについて、すべての時間を通してご受講頂く受講形態です。

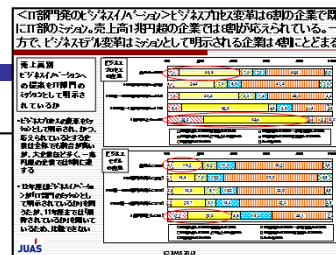
受講対象
セッション

✓スポット受講：各回をバラでご受講頂く受講形態です。
WS・交流会はご参加対象外です。

受講対象
セッション

第1回「ITマネジメント」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2014」より



■ 基調講演

基調講演

「これまで、そしてこれからのITマネジメントとは」

講師:(株)アイ・ティ・アール 代表取締役/プリンシパル・アナリスト 内山 悟志氏

ITマネジメント概観



●講演概要

ITの重要度が増し、業務やビジネスに対してより積極的な参画が求められている今、ITマネジメントが益々重要になってきています。ユーザー企業において、経営に寄与するITとは何か。ビジネス戦略とIT戦略、そしてITマネジメントとはどのような関係にあり、ITマネジメントがうまくいくと何が嬉しいのか。その要素とは何なのか。企業におけるIT関連業務の全容を把握するとともに、非常に幅広い概念である「ITマネジメント」をわかりやすく整理してご紹介いただきます。

●講師略歴

大手外資系企業の情報システム部門、データクエスト・ジャパン株式会社のシニア・アナリストを経て、1994年、情報技術研究所(現ITR)を設立し代表取締役に就任。ガートナーグループ・ジャパン・リサーチ・センター代表を兼務する。現在は、IT戦略、IT投資、IT組織運営などの分野を専門とするアナリストとして活動。近著『名前だけのITコンサルなんていない』(翔泳社) 『日本版SOX法 IT統制実践法』(SRC) その他寄稿記事、講演など多数。

■ ユーザー事例セッション

Session 1

「IT部門は変革仕掛け人！プロセス・プロダクトをも変革した「抜本改革」

講師: 東京海上日動火災保険(株) IT企画部 部長 三宅 晃氏

ビジネスインベシション



●講演概要

全社のプロセスを俯瞰できるのはIT部門の強みです。それを生かし、ITを活用してビジネスプロセスや商品を変革する全社的提案も今後重要です。東京海上日動火災保険では、かつて度重なる商品の改訂や多様化によりシステムも複雑化、ビジネス現場のスピードに危機感が生まれていました。かといってシステムだけ刷新しても根本的解決にはなりません。そこで商品・プロセス・システム三位一体での「抜本改革」をIT部門から提案。経営や事業部門を説得し巻き込み、理解を得ながら全社プロジェクトとして2003年から7年の歳月をかけ、改革に成功。「抜本改革」の立上げと推進に心骨を砕いたご経験を交えて取組みをご紹介します。

●講師略歴

1984年慶應義塾大学商学部卒業、同年東京海上火災保険入社。以後一貫してIT部門に在籍、基幹系システムの開発を振り出しに、ITを活用した業務革新プロジェクトに数多く参画。趣味は元々スポーツ全般だが、今はもっぱらゴルフと社内外老若男女幅広い友人と飲みに行くこと。

Session 2

「新市場創出のエンジンとなれ！ビジネスを支えるグローバルクラウド基盤構築」

講師:(株)リコー 経営革新本部 副本部長 理事 石野 普之氏

コアビジネスを支えるIT



●講演概要

戦略実現にはどのようなシステムが必要か。経営とITとの関係づくりや効果刈り取りの考え方、システム構想から実現方法の選択、ゴール設定など、戦略をシステムへ落とし込み、いかに周囲を1つの目標へと導けばよいのか。「グループ共通ITインフラ(※)」をはじめ、リコーの企業戦略を受けた経営に効く数々のシステム構想をマネジメントしてこられた数々のご経験を交えて事例をオムニバス風にご紹介いたします。

(※)リコーでは事務機器とクラウドサービスの併売による新市場開拓を掲げ、2013年度に新事業で2000億円以上の売上増を目指す。それを支える核としてクラウド基盤「グループ共通ITインフラ」を構築。IT部門が社内ベンダーとして、基盤上で動作する一般顧客向けクラウドサービスを13年から提供。経営戦略の実現基盤として新サービス投入までの期間を最大1/4に短縮する仕掛けや、グローバルでのITガバナンス強化の仕掛けを織り込む。

●講師略歴

84年リコー入社。84-99年にかけて主に複写機の設計支援システム企画、開発、ネットワーク設計、情報共有環境の構築に従事。00-08年には米州統括販社にてリージョンのITガバナンス責任者、基幹システム構築、構造改革プロジェクト等のプロジェクトリーダーを担当。併せてM&A、買収後の会社統合などにITから参画。09年帰国後グローバル・リコーのIT戦略立案、展開、ITガバナンス、ISMS、クラウド共通インフラ等を担当。14年4月より経営革新本部 副本部長 理事。

第2回「IT投資」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2014」より

＜IT部門がIT投資で解決したい中期的な経営課題＞

「迅速な業績把握、情報把握(リアルタイム経営)」と「業務プロセスの効率化(省力化、業務コスト削減)」がIT投資の二本柱

IT投資で解決したい中期的な経営課題(1～3位)

・累計では「業務プロセスの効率化」(49.4%)と、続く「迅速な業績把握、情報把握(リアルタイム経営)」(39.2%)が圧倒的に高い。その次は少し低くなるが、「IT開発・運用のコスト削減」(25.6%)、「営業力の強化」(24.2%)、「業務プロセスの質・精度の向上」(23.3%)が続いている。

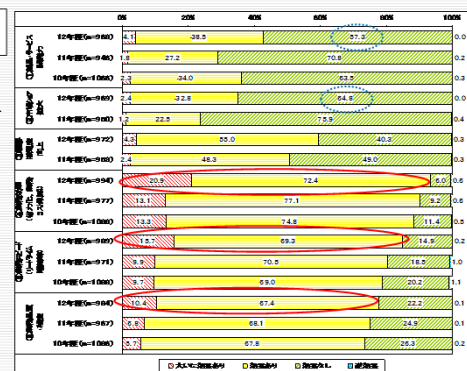
・BCP(事業継続計画)の見直しは、3位の回答率が高い(11.8%)。東日本大震災後、継続課題と位置づけられていると考えられる。



「業務効率」「業務スピード」「業務品質・精度」についてはIT投資の「効果あり」としている企業が8～9割。一方で「製品・サービス開発力」「市場シェア拡大」についてはIT投資の「効果なし」としている企業が6～7割

年度別IT投資効果の状況

・業務プロセスの効率化、スピードアップはIT投資の重要なテーマであり、効果も認めやすいが、製品・サービス開発領域については、IT投資のテーマとして扱われていない場合も多く、また効果も把握しにくいという状況が示されている。



■ ユーザー事例セッション

Session 1

「投資前に効果宣言！ビジネスへの効果をとことん考えるIT投資の決定・評価のしくみ」

講師：(株)JTB情報システム 執行役員／調達管理部長 伊藤 誠氏

IT投資の明確化と評価



●講演概要

IT投資の真の目的は「ビジネス／業務への効果」。その効果とは何か？いつまでに軌道に乗せたいのか？そのゴールが明確でなければ投資対効果は評価できません。JTBでは、システム投資前に評価の実施時期と内容を確認し、期待効果が認められないシステムについては縮小や停止を検討する、というルールを2012年4月から断行。システム投資の起案時点でIT部門などからなる「IT戦略委員会」とユーザー部門とが共に約1か月検討し、ゴールを明確化しています。「IT戦略委員会」の事務局運営に携わったご経験を交えてJTBのお取組みをご紹介します。

●講師略歴

1984年 (株)日本交通公社(現 (株)ジェイティービー)に入社、カードシステム、支店会計システム等の開発プロジェクトに関わり、基幹システム再構築プロジェクトに参画。、2000年より(株)JTB情報システムに出向。国内旅行、海外旅行のシステム開発プロジェクト、ITSM推進役を担い、グループIT推進室長に就任、「IT戦略委員会」運営に携わる。その後、総務部門、営業部門を経て、現職に至る。

Session 2

「効果なくして投資なし。企業競争力を加速するIT投資対効果検証サイクルの構築」

講師：(株)ローソン 業務統括本部 参事 粕谷 武宏氏

経営戦略とIT戦略の攻めの投資



●講演概要

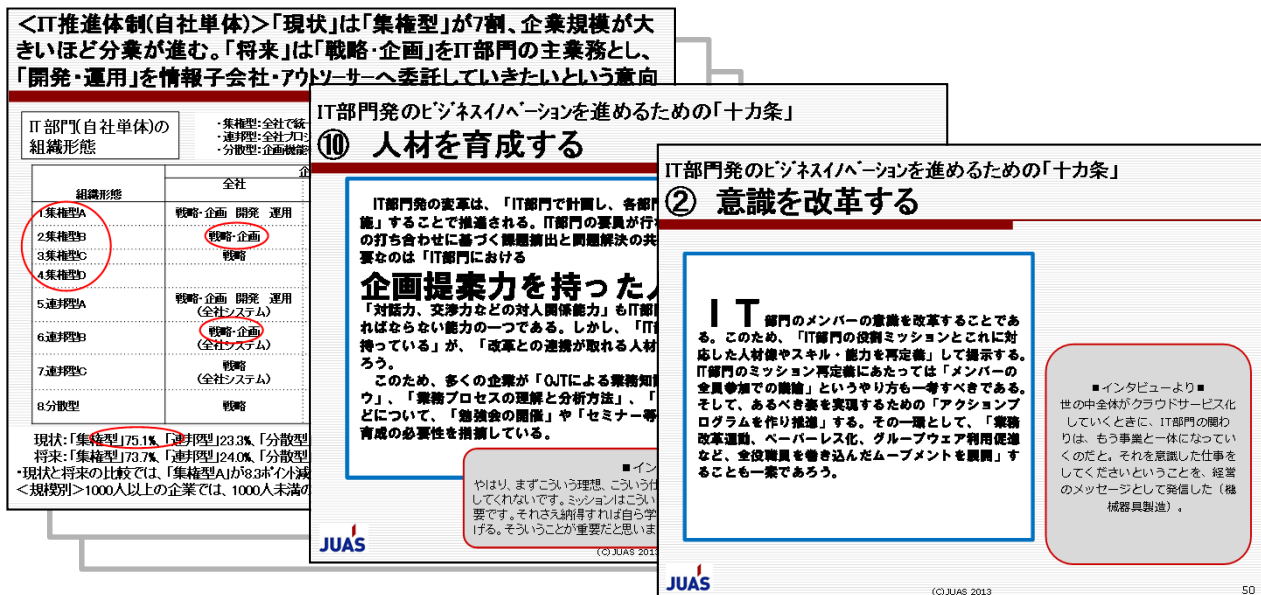
IT投資マネジメントには、計画された効果が確実に実現できたかをモニターし、その改善を支援する役割があります。また、投資意思決定という一時点での情報支援から、計画策定、業績評価、改善にいたるプロセスを一貫するIT投資ライフサイクル全体を管理することで、IT投資にもたらされる企業業績の最大化(企業競争力の強化)を図ることが大きな目的です。ローソンでは2005年からIT投資マネジメントの中で「IT-ROI(投資対効果)」の観点を中心に、試行錯誤を繰り返しながら、IT投資案件の計画時評価とシステムリリース後の効果検証へ「バランス・スコアカード(BSC)」の考え方を取り入れ、効果検証のサイクルを構築。BSCを会社提案の仕組みへ適用し、IT-ROIの効果検証のサイクル策定した取り組みのほか、最新の取り組みである戦略的見える化の取り組みなど、ご経験を交えてご紹介いただきます。

●講師

1986年(株)ローソン・ジャパン入社(現：(株)ローソン)、1987年情報システム室に配属。以降会計システム・店舗システムなどのシステム開発を担当。2002年よりシステム企画部門にて、IT事業戦略・IT投資管理(IT-ROI)・人材育成などを担当。2008年よりJUAS人材育成研究会へ参画。(2010年度、2011年度人材育成研究会副会長・2012～14年度組織力強化研究会副会長)。14年9月より現職。

第3回「IT推進組織とIT人材」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2014」より



■ ユーザー事例セッション

Session
1

「DNPグループにおけるIT人材強化と横断的組織機能強化への取り組み」

講師:大日本印刷(株) 情報ソリューション事業部

スマートソリューション企画開発本部 本部長 辺見 匡氏

意識改革・組織づくり・人材育成
(ユーザー企業)



●講演概要

ITがビジネスモデルの変革をリードするには、それを実現する実力をITサイドが身につけていく必要があります。ITソリューションがビジネスの中核となってきたDNP(大日本印刷)グループでは、IT部門と事業部門のIT要員併せて約2千人が業務に邁進。但し、大所帯ゆえの問題も抱えてきました。そこで、DNPグループの全体最適を推進すべく、2013年に組織デザインの大改革を断行。精鋭による専任組織「ITマネジメントセンター」を設立し、全社横断の機能強化に着手。137年の歴史と約4万人のグループ社員を擁する組織において、ビジネスにフィットしたITへ、いかにチェンジしていくのか。「ITマネジメントセンター」を単なる「御旗」ではなく、職務として高いレベルで履行し、真に機能させるための仕掛けも埋めこみながら、立ち上げに奔走されたご経験を交えて、取り組みをお話いただきます。

●講師略歴

87年大日本印刷入社。情報システム本部に配属後、26年間以上、ITの業務に携わる。グループのIT子会社であるDNP情報システムのシステム技術本部長、本社の情報システム本部長を担当し、今年の7月より現職。社内のガバナンスITから事業部のビジネスIT最前線へ土俵が変わり、日々奮闘中。座右の銘は「A rolling stone gathers no moss(転がる石に苔は生えぬ)」で、誠意を持って努力を積み重ねれば、必ず結果はついてくると考えている。真顔で人に話すという偽善者と言われるのが悲しい。

Session
2

「組織力を最大限に発揮する！人を大切にすると本当のプロジェクトマネジメントを目指して」

講師:中電シーティーアイ(株) 取締役 人財開発センター長 松田 信之氏

意識改革・組織づくり・人材育成
(情報子会社)



●講演概要

提案、企画、開発、運用…ITシステムは主管部、情報システム部、IT関連会社、ベンダ等の「現場の人の力」で支えられています。「人」の力をいかに発揮してもらえるかはリーダーにかかっており、コミュニケーションが対当でなかったり、人間関係に不安があると、チームやプロジェクトは停滞します。

リーダーは現場の人へ「奉仕する」気持ちを持ち、チーム全体のモチベーションを上げ、働きやすい雰囲気を作る「人間力」が最も大切です。

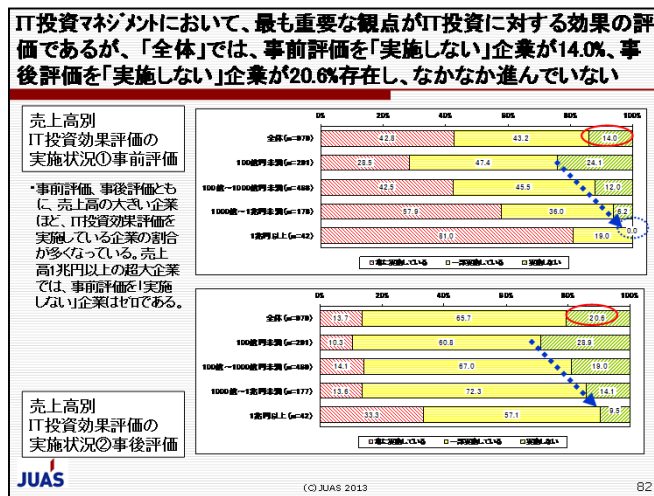
大規模開発プロジェクトでの苦労経験から、『本当のマネジメント』はどうあるべきかについて一緒に考えていきたいと思います。

●講師略歴

1982年中部電力入社。情報通信事業の立ち上げなど新規のITプロジェクトに参画。2011年7月より中部電力執行役員情報システム部長を経て2014年6月より現職。

第4回「システム戦略～テクノロジー・インフラ編」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2014」より



■ ユーザー事例セッション

Session
1

「インフラ戦略がビジネスを制す！進化を続ける宅急便とそれを支えるインフラ戦略」

講師：ヤマト運輸(株) 情報システム部長 田中 從雅氏

インフラ戦略



●講演概要

インフラ戦略がビジネスの将来さをも左右する時代に突入しています。その中で、ビジネスやテクノロジーの将来を見越して、自社なりのインフラ戦略をどう考えていくのか。2019年に創業100周年を迎えるヤマトグループは、サービスの投入と並んで、ビジネスを「押し上げる力」としての戦略的基幹システムの整備にもいち早く注力。74年から続く同社の基幹システム「NEKOシステム」は、現在第8次の構築が進行中です。その変遷の根底には、ビジネス変化を見通し、テクノロジーを先取りして、システムへと埋め込み新商品を開発してきた歴史が息づいています。そして今、クラウド化やスマートデバイスの活用、グローバル化が加速する中でどのような哲学を持ってインフラを創り上げていくのか。ヤマト流基幹システムの考え方の変遷と最新の取り組みを、ご経験と共にご紹介いただきます。

●講師略歴

1981年4月入社。1984年11月16日に発生した世田谷ケーブル火災を機に発足した広域災害対策PJに参加、以後、広域災害対策に従事すると共にNEKOシステムの開発・運用に携わる。2011年4月より現職を担い、現在に至る。

Session
2

「変化をがっちりキャッチ！経営戦略にそったインフラ戦略をめざして」

講師：(株)三菱東京UFJ銀行 システム部 ITサービス室長 暦本 文哉氏

インフラ戦略



●講演概要

環境の変化が著しい昨今、経営方針に則ったITポリシーを定義し、自社に適したIT環境を整備していくことは企業の競争力向上に不可欠です。三菱東京UFJ銀行では、早くからEA(エンタープライズ・アーキテクチャー)の概念を導入し、情報システムや組織の最適化に取り組んでおられます。システムライフサイクル全般にわたるコスト削減や息の長いシステム利用を目指すだけでなく、最新技術を常に取り入れながら、経営戦略に貢献するIT基盤や新規テクノロジー活用の整備を推進しているとのこと。長年にわたり同社のITマネジメントの向上に奔走されているご経験の他、クラウドやビッグデータの活用など、新しい技術への視点も交えて、インフラ戦略のあり方をご紹介します。

●講師略歴

1987年(株)三菱銀行(現：(株)三菱東京UFJ銀行)に入行。ホスト系の基盤構築を皮切りに、外国為替・情報系等の業務システム開発、合併に伴うシステム統合の企画・推進など、IT関連分野を幅広く担当。2003年にEAを導入するとともに、EA専任チームを組成。以来、主にEAの構築・推進に従事。2014年5月より現職(データセンターおよびシステム運用の責任者)。JUASでは2013年・2014年の企業IT動向調査委員を務めている。

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2014」より



Session 1

講師:カブドットコム証券(株) 常務執行役 事務・システム本部副本部長兼システム部長 阿部 吉伸氏



モノからコトへのサービス競争があらゆる業種で激化しつつある今、システムもユーザーを飽きさせないワクワクするものへと常に進化し続けなければ、そのシステムは使われ続けません。カブドットコム証券では、顧客ニーズを先取りし、ビジネスサービスを素早く実現するために、スピード開発を自分たちの競争の源泉と位置付け、「ITをベースにしたクリエイター」として、経営課題を解決しつづけてきました。自社にとって最適な、ビジネスをリードするシステム構築とは何か。スピードと柔軟性の両立という難問に心血を注いでいらしたご経験を元に、じっくりとお話いただきます。

1999年日本オンライン証券(現カブドットコム証券)入社。02年システム統括部長を経て、08年執行役、12年より現職。システム予算策定からリスク管理等の施策の他、システム部長も兼任し、直接システム開発、運用にも関わる。カブドットコム証券入社前はシステムエンジニアとして金融関係の開発からネットワーク構築、サーバ運営に従事。

Session 2

講師:ドコモ・システムズ(株) クラウド事業部 クラウド開発部長 井尻 周作氏



ITの特性をフルに活かし、経営にどう寄与していくか。NTTドコモでは、変化が目まぐるしい今の時代だからこそ経営的な視点に小さな死角すら作らないために、今この瞬間の経営の現状を把握し、マネジメントの対応策をすぐに的確に打っていく「リアルタイム・マネジメント」を理想として掲げ、その実現のために基幹システム「DREAMS」の構築・運用に成功しています。ヒト・業務・金・物の流れとデータの流れを一致させ、システムで現実の経営の姿を即時に把握するという視点にいかにして到達し、実現したか。さらにはITサイドが企業に新しい風を吹き込み、全社的な業務改革へとつなげていったのか。「DREAMS」のグランドデザイン策定から、定着化の施策展開まで、今も一貫して骨身を惜しまず邁進されている立役者のおひとりに、実体験を踏まえてお話しいただきます。

1993年NTTドコモ入社。情報システム部配属。顧客管理システム(ALADIN)、DWH、企業情報システム(DREAMS)、料金システム(MoBills)の大規模基幹システム開発に従事。主に方式設計・運用/性能設計に携わる。09年～関西支社勤務を経て、2012年4月よりDREAMSプロジェクトリーダー。2014年7月より現職。